

* 東京天文台三鷹構内にあった 60m 鉄塔の痕跡

東京大学百年史、部局史三 東京天文台編の 36 ページに以下の文章がある。「三鷹の天文台構内には、大正 12 年 (1923 年) 文部省測地学委員会によって国際報時所が設置され、同年度末にはその庁舎、職員宿舎および高さ 60m の空中線鉄塔三基 (昭和初年に一基増設) や、一辺 100m の菱形測基線が建設された。」ところがこの 60m 鉄塔については、語り継がれていないが非常に興味深い話がある。

アーカイブの仕事を始めて、東京天文台構内の 60m 鉄塔のアンテナに陸軍の戦闘機がひっかかり墜落するという事故があり、陸軍の命令でこれらの 60m 鉄塔が撤去されたという文章を読んだのである。ところがその文献をメモし損ない、今もって出てこない。仕方なくインターネットで検索し下記の記事を見つけた。引用の場合は出典を明らかにせよとあるので、出展を明らかにした上で引用させていただいた。

インターネット上に「陸軍飛行隊第 244 戦隊 調布の空の勇士たち」の「聞き書き 244 戦隊」の「聞き書き調布、浜松その他編-6」のなかに次の文章がある。

6 6. 浜田中尉

夜間訓練で、みかづきの浜田中尉が天文台の鉄塔に接触して墜落したときには、救援隊として現場へ駆けつけたが、火の手が強くてどうしようもなかった。落下傘の絹が焼けた、くさい臭いは今も思い出す。

注 東京天文台構内には、標準時 (J J Y) を放送する逓信省検見川送信所への較正信号を送るための空中線鉄塔 (60m 高) が 4 本立っていた。天文台は段丘崖上にあるため、鉄塔は滑走路面からは約 80m 高となり、夜間、悪天候下の飛行には障害となっていたが、この事故の後、赤色の障害灯が設置された。

この記事には、事故の後、赤色の障害灯が設置されたとあるが、「泣く子」と「帝国陸軍」には逆らえるはずもなく、大日本帝国の時刻を保持していた国際報時所の保持のための受信アンテナさえ倒させられたのである。東京天文台に昭和 14 年からお勤めであった藤井繁氏のご健在で、「東京天文台に入ったときには確かに 60m 鉄塔が立っていたが、あるとき、陸軍の飛行機がアンテナにひっかかり墜落したといううわさをちらっと聞いたが、これは軍の機密事件とされ、箝口令 (かんこうれい) が敷かれたようで周囲の人たちは口をつぐんで一切を語らなかったが、いつの間にか鉄塔はなくなっていた」とお手紙でお教えいただいた。

筆者は、もう何ヶ月もこの鉄塔の痕跡を調べていた。天文月報第 18 巻第 8 号 (1925 年 (大正 14 年) に当時の東京天文台平面図 (写真 1) が載っており、60m 鉄塔と思われる無線受信鉄塔 3 基が書かれている。これを元に国立天文台構内を探索して、現在までに鉄塔の基礎

部分と思われる場所 2 箇所 (①、②)、その鉄塔のステーを張ったコンクリート基礎と思われるものを 8 箇所発見した。写真 1 の①の場所に鉄塔の基礎らしい太い 3 本のボルト(写真 2)、②の場所に鉄塔の基礎らしいものと 4 本のボルト(写真 3)を発見した。其の他の赤い印がステーの基礎のコンクリートである。

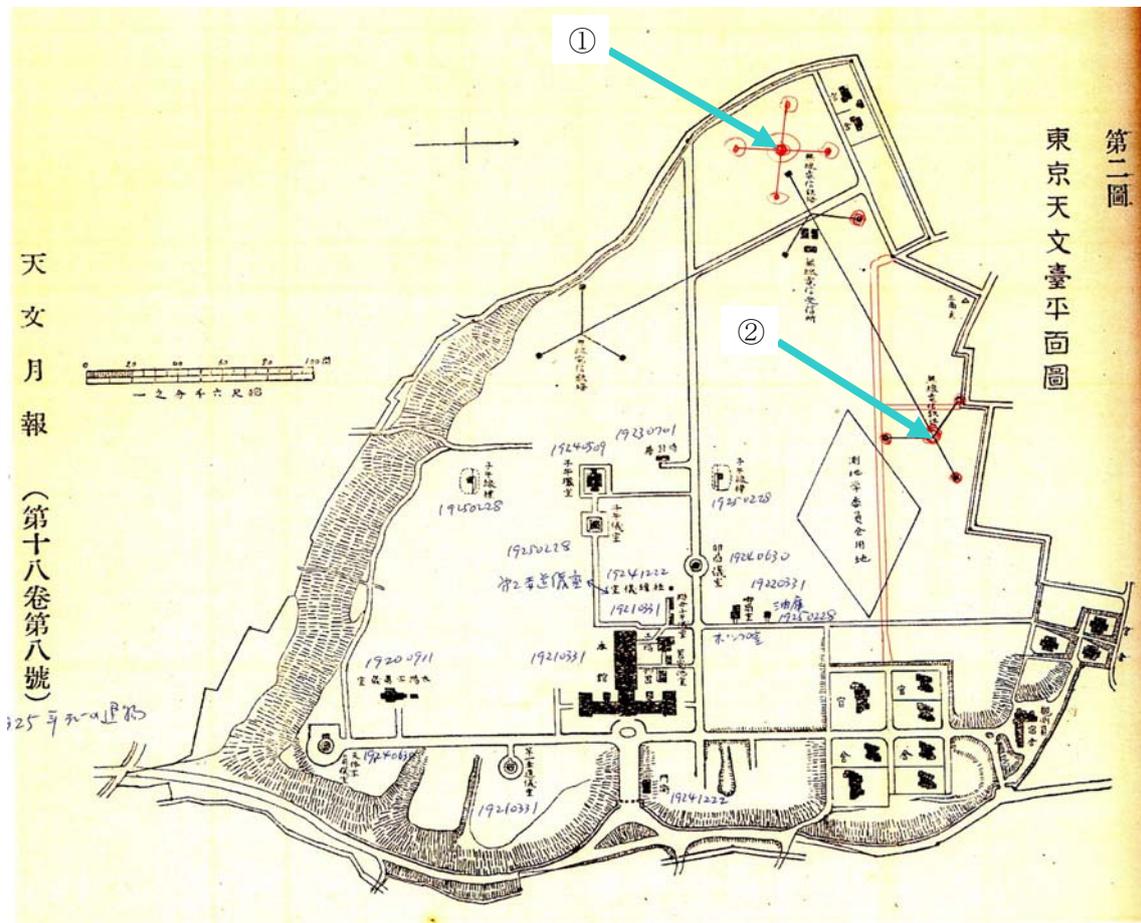


写真 1 1925 年 (大正 14 年) の東京天文台の建物配置図

写真 1 の 3 点の頂点に当たる鉄塔の位置と①の基礎(写真 2)の場所が一致しないこと、またその基礎部分と②の鉄塔の基礎(写真 3)と部分が、全く様子が違うこと、そして①鉄塔のステーは 4 方向に張られ、②の鉄塔は 3 方向にステーが張られていることなど不思議な点が多い。また 3 点の頂点に当たる鉄塔のステーのコンクリートが 1 箇所見つかっているから、①は 60m 鉄塔ではなく別のものかもしれない。

写真 1 の 3 点の頂点の鉄塔位置から左下に延びるアンテナ線辺りは「篠竹」の竹やぶ、そして荒地の草原であるが、その殆どの部分は自動光電子午環建設時に子午線標設置のため掘られた土砂の捨て場になり、地面が 1m ばかり高くなり、いろいろな遺構が埋められてしまい、検証が非常に難しい。

写真 1 は 1925 年当時、東京天文台にあった建物が書かれており、T 字型をした本館が威厳を示し、天文台の歴史を物語っている。



写真2 ①の3本の太いボルト



写真3 ②の位置の鉄塔の基礎と思われるもの

写真2と写真3は全く形状が異なるのであるから、同じ60m鉄塔の基礎と考えるには無理があるし、①の場所は写真1の建物配置図の場所とも違う場所である。①の3本ボルト

は②の4本のボルトよりはるかに太いのだが、ここには何が立っていたのであろうか。なぞが深まるばかりである。写真4は①鉄塔のステーのコンクリート基礎4個である。



写真4 ①鉄塔跡の4個のステーの基礎コンクリート

写真5は、3点の頂点の鉄塔のステーの基礎と思われるコンクリートで、基線尺倉庫の東にある。このステーの方向はわかるから、それなりの調査をすれば②の基礎のようなものが見つかるかもしれない。3個あるはずのコンクリート基礎は1個しか見つかっていない。



写真5 基線尺倉庫東のコンクリート基礎

この 60m 鉄塔と思われるものは昭和 27 年発行の地理調査所の 1/25000 の地図（図 1）にも載っており、昭和 20 年第 2 回修正測図となっている。鉄塔の場所は天文月報第 18 巻第 8 号の図の場所である。関係の場所を拡大図（図 2）に示す。

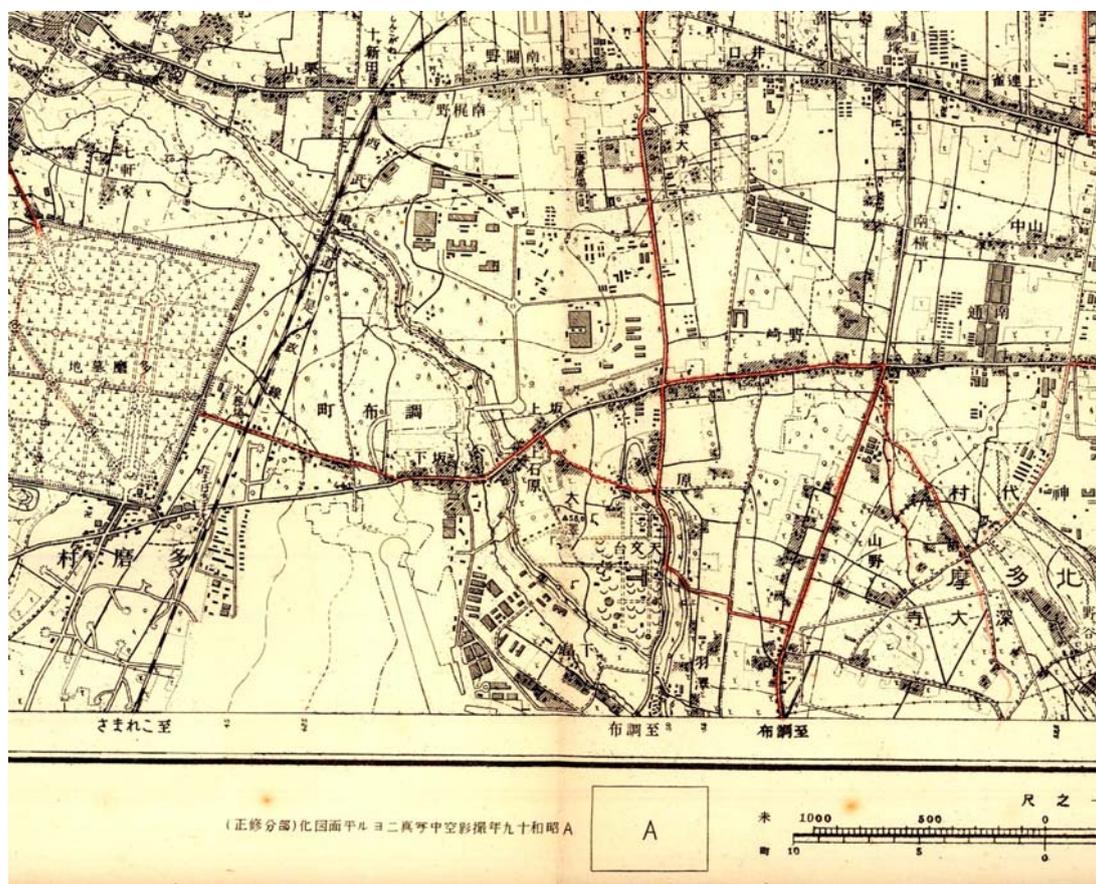


図 1 昭和 27 年 12 月 28 日発行 地理調査書の地図



図 2 図 1 の関係場所の拡大図